

# 中小企業景況調査報告書

平成 24 年 1 月～3 月期 実績

(平成 24 年 4 月～6 月期 予測)

調査実施時点：平成 24 年 3 月 1 日

京都府商工会連合会

## 《 目 次 》

1. 中小企業景況調査の概要 .....	2 頁
2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】 .....	3 ~ 4 頁
3. 各 業 種 の 景 況	
(1) 製造業の景況 .....	5 ~ 6 頁
(2) 建設業の景況 .....	7 ~ 8 頁
(3) 小売業の景況 .....	9 ~ 10 頁
(4) サービス業の景況 .....	11 ~ 12 頁

### D・I とは (景気動向指数)

この報告書の中で用いている「**D・I 指数**」とは、ディフュージョン・インデックスの略で、企業経営者の景気動向の度合いを表す指標として、利用されています。

#### 《算出方法》

前年同期に比べて、

$$\frac{\text{『増加』回答企業の割合}}{\text{(上昇・好転等)}} - \frac{\text{『減少』回答企業の割合}}{\text{(低下・悪化等)}} = \text{D・I}$$

D・I が、**プラス (+)** 値 .....

強気 (楽観) を表す。

D・I が、**マイナス (-)** 値 .....

弱気 (悲観) を表す。

例えば、売上高が前年同期比で、

『増加』回答企業 50%、『不変』回答企業 30%、『減少』回答企業 20% の場合、

$$\text{D・I 指数は、} \quad 50\% - 20\% = 30\%$$

となり、経営者の売上高に対する度合いが、強気気運であることを表しています。

# 1. 中小企業景況調査の概要

この調査は、商工会地域の産業の状況、地域の経済動向等について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速かつ的確に収集把握して、経営改善普及事業の効果的な指導資料にするために、全国商工会連合会が実施する調査に連携し、府内の状況を取りまとめたものです。

調査要領、本年度の調査対象商工会、及び、調査回答企業数・対象業種別構成の内訳は次のとおりです。

## (1) 調査対象期間

平成24年 1月～3月期を対象とした。

調査実施時点 …… 3月 1日 (木)

調査期間 …… 2月10日 (金)～ 3月 2日 (金)

## (2) 調査の方法

(イ) 商工会の経営支援員の訪問による面接調査とした。

(ロ) 調査対象商工会の選定は、管内ごとの市町村人口を勘案し、又、調査対象企業の抽出は、各業種・規模等の有意抽出法とした。

## (3) 調査対象商工会

福知山市商工会、向日市商工会、八幡市商工会、京丹後市商工会、南丹市商工会、久御山町商工会、京田辺市商工会、宇治田原町商工会、木津川市山城町商工会、京丹波町商工会、与謝野町商工会

(計 11商工会)

## (4) 対象業種別構成 及び 回答企業数

業 種	調査対象 企 業 数	構 成 比	回答企業数	回 答 率
製 造 業	39	21.7%	37	94.9%
建 設 業	34	18.9%	33	97.1%
小 売 業	51	28.3%	49	96.1%
サービス業	56	31.1%	55	98.2%
【 合 計 】	180	100.0%	174	96.7%

## 2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

### ≪概要≫

#### 全ての業種において、売上高D・I、採算D・Iが悪化に転じる

売上高D・Iについては、小売業(▲17.4ポイント)、製造業(▲14.0ポイント)、サービス業(▲9.8ポイント)、建設業(▲8.2ポイント)と全業種が「悪化」となったため、全体の売上高D・Iは前期比▲12.6ポイント(前期▲29.3ポイント→今期▲41.9ポイント)の「悪化」になった。

採算については、小売業(▲23.7ポイント)、製造業(▲23.0ポイント)、サービス業(▲8.5ポイント)、建設業(▲3.2ポイント)と全業種が「悪化」となったため、全体の採算D・Iは前期比▲14.8ポイント(前期▲36.6ポイント→今期▲51.4ポイント)の「悪化」になった。

具体的には、製造業は北部の基幹産業である「織物業」が需要の低迷と糸価等の不安定により「売上額」が減少。そんな中で「自動車部品」製造業において「売上額」が増加、しかしコスト削減の圧力が強まり「採算」は「悪化」。

建設業は、全体として民需・官公需共、年度末であったにもかかわらず低位で推移。北部では記録的な大雪の影響で工事が遅れ、「完成工事額」は伸びず。

小売業は、業種によって業況にバラつきはあるが、大型・中型店等への顧客流出がより顕著となり、「売上額」の低迷状態が続いている。

サービス業は、消費者の節約志向の広がりから大手チェーン店が客足を増やす一方で、価格競争についていけない飲食・クリーニング・理美容・自動車修理店は大幅に客足を減らしている。

#### 来期以降も景気回復の兆しが見えない状況が続く

全業種において、原油価格の高騰、電気料金等の値上げ等により「採算」の悪化、それに消費税増税による先行き不安から消費マインドが上らず、回復には程遠い状況が続くとする企業が殆ど。

### 業種別景況指標

(景気の天気図)

〈見通し〉

	H23年				H24年	H24年
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期
製 造 業						
建 設 業						
小 売 業						
サービ業						

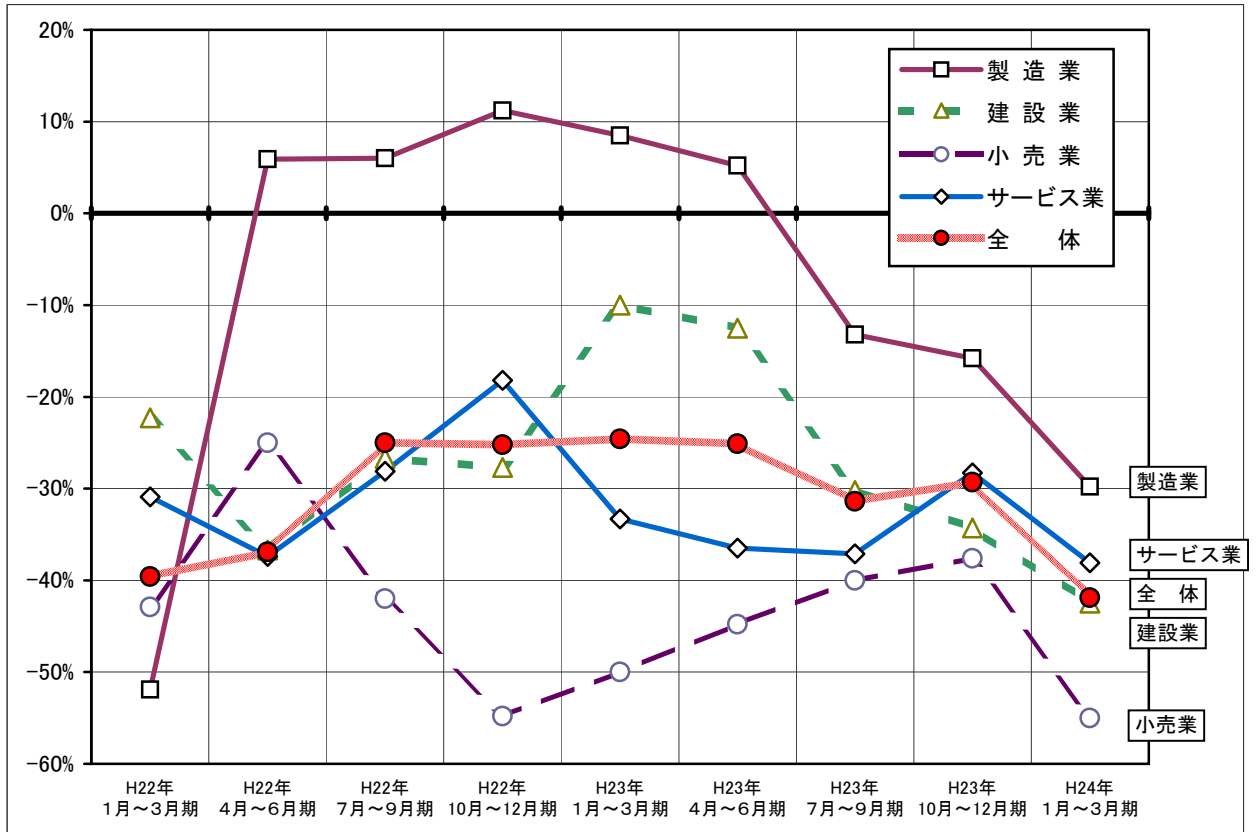
天気図のよみ方

D・I	100.0 ～50.1	50.0 ～25.1	25.0 ～0.1	0.0 ～▲25.0	▲25.1 ～▲50.0	▲50.1 ～▲100.0
指 標						
内 容	特に好転	好 転	やや好転	やや悪化	悪 化	特に悪化

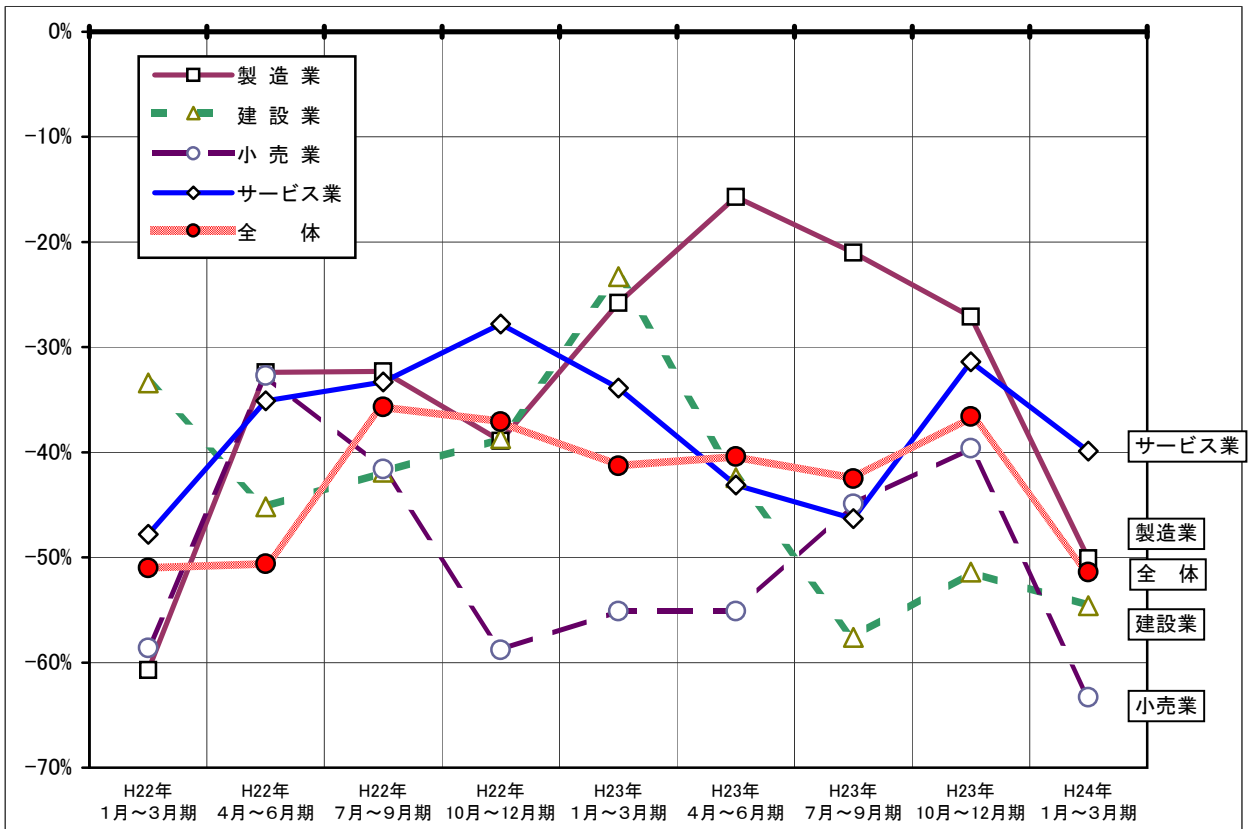
## 2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

### 《売上高と採算の推移》

(1) 売上高 D・I（景気動向指数）の推移 —前年同期比—



(2) 採算 D・I（景気動向指数）の推移 —前年同期比—



### 3. 各業種の景況

### (1) 製造業

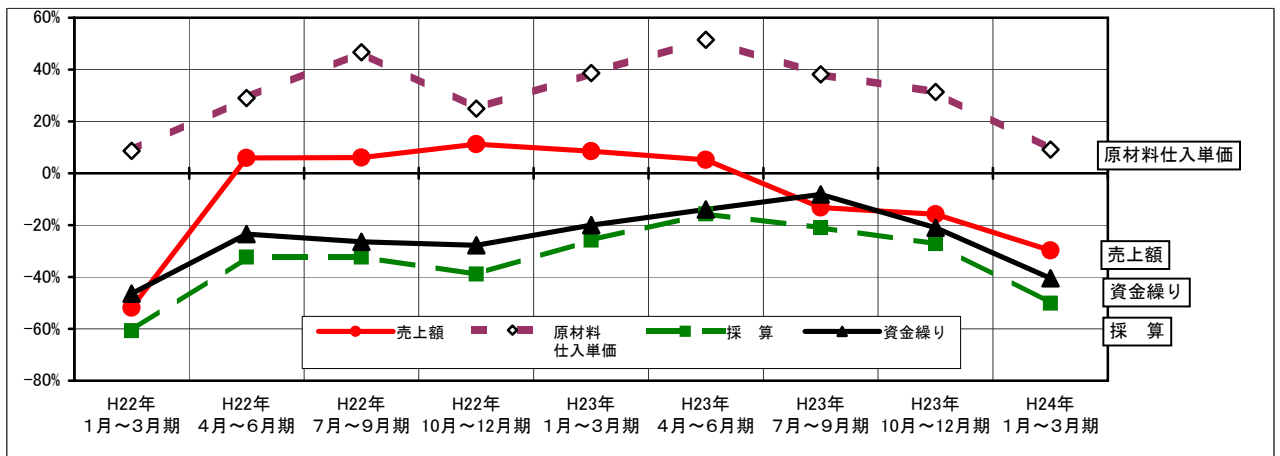
D・I(景気動向指数・前年同期比)指数の「売上額」は14.0ポイント、「採算」は23.0ポイントの大幅な低下となった。「自動車部品」製造業においては、原油高騰による低燃費自動車への需要から「売上額」が好転している企業が多いが、「商品単価の低下」が問題視され、「採算」は悪化している。「織物業」では、売上額・採算・資金繰りにおいて、「好転」回答の企業は皆無であり、殆どの企業が「悪化」回答である。今期・来期とも設備投資できない状況と伺える。

製造業全体としても、「需要の停滞」の続く中、原油の高騰に加え、電気料金等の値上げも今後予想されており、厳しい経営状況が続くと見られる。

#### ① 製造業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

(予測)

製造業	H23年				H24年	H24年
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期
売上額	8.5%	5.2%	▲13.2%	▲15.8%	▲29.8%	▲35.2%
原材料仕入単価	38.7%	51.5%	38.2%	31.4%	9.1%	6.0%
採算	▲25.8%	▲15.7%	▲21.0%	▲27.1%	▲50.1%	▲38.9%
資金繰り	▲20.0%	▲13.9%	▲8.1%	▲21.0%	▲40.5%	▲27.0%



売上額 …… マイナス 29.8%

(前期比 14.0ポイント悪化)

採算 …… マイナス 50.1%

(前期比 23.0ポイント悪化)

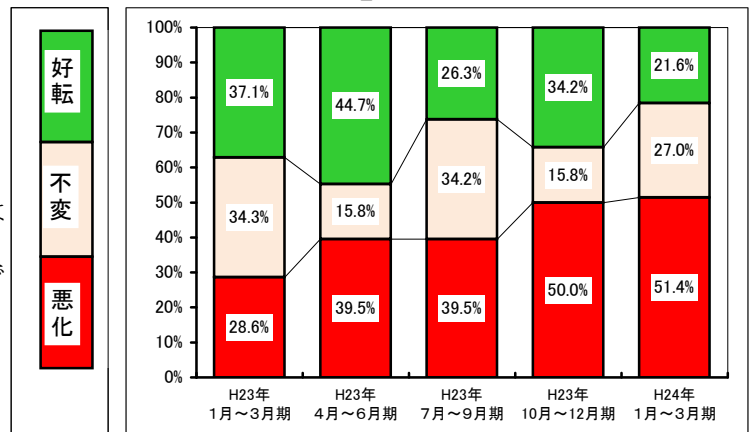
資金繰り …… マイナス 40.5%

(前期比 19.5ポイント悪化)

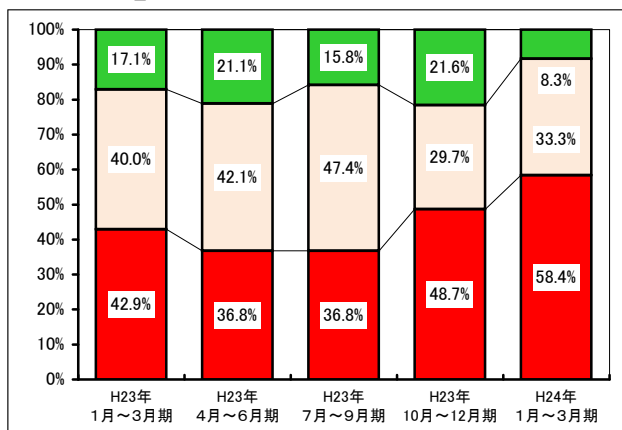
前期は「売上額」「採算」の「好転」企業は増加したが、今期は「好転」企業が大幅減少、売上額D・I、採算D・Iは3期連続で「悪化」となった。

「資金繰り」は「好転」企業が3期連続で減少し、今期は皆無となり、資金繰りD・Iも大幅な「悪化」となった。

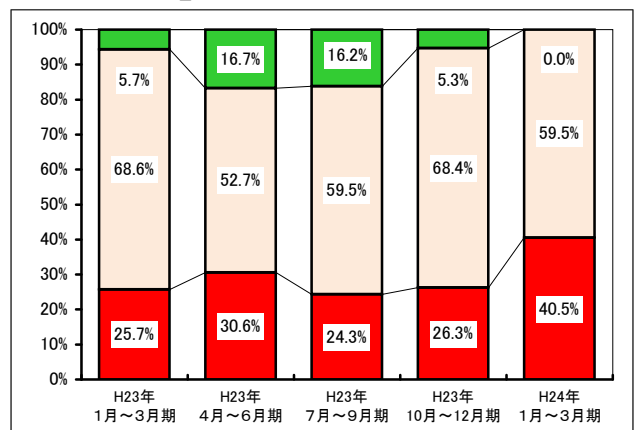
#### ※『売上(加工)額』の状況 前年同期比 (D・I 値)



#### ※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



#### ※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



### 3. 各業種の景況

### (1) 製造業

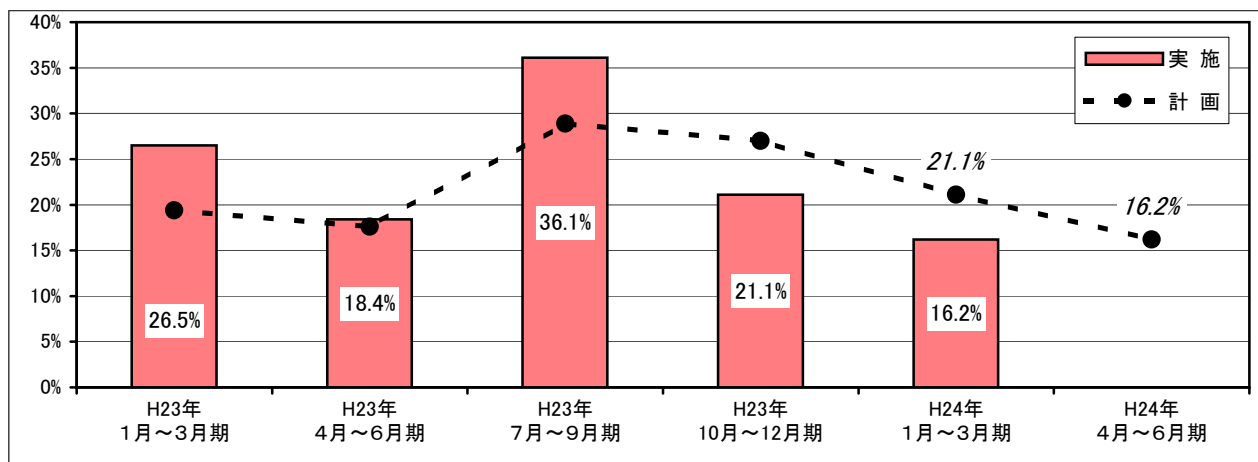
#### ② 設備投資の状況

長期に亘る「需要の停滞」の中、「自動車部品」「産業機器用部品」は商品価格低減と製品ニーズに対応ために、生産設備に投資する企業が多い。

「食料品製造」「織物業」は消費低迷の中、投資した企業は皆無であり、来期に設備投資を計画する企業もない。全体として3期連続で設備投資をする企業は減少している。

(計画)

製造業	H23年				H24年	H24年	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	
土地	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
車両・運搬具	33.3%	14.3%	15.4%	25.0%	0.0%	0.0%	
生産設備	66.7%	71.4%	46.2%	75.0%	83.3%	83.3%	
設備投資の実施	26.5%	18.4%	36.1%	21.1%	16.2%	16.2%	

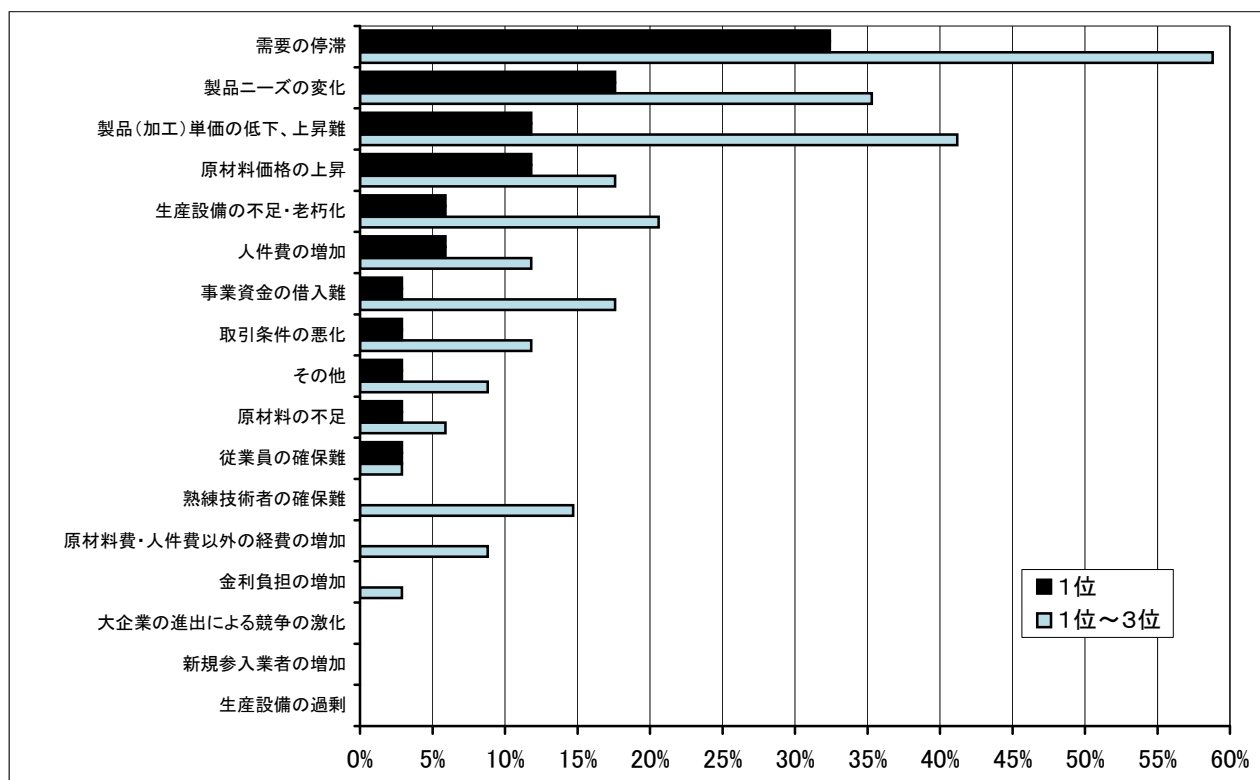


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

#### ③ 経営上の問題点

企業が問題点として1位に上げている「需要の停滞」が10期連続(2年半)となり、売上げ確保のため「商品単価」を下げなければならず、収益悪化の大きな要因となっている。

特に自動車・電気等の産業機器関連においては、「商品単価の低下」を問題視している。食品製造業では、「原材料価格の上昇」が売上げ・採算の悪化の要因と見ている。



(注) 問題点の1位に上げた企業の割合

### 3. 各業種の景況

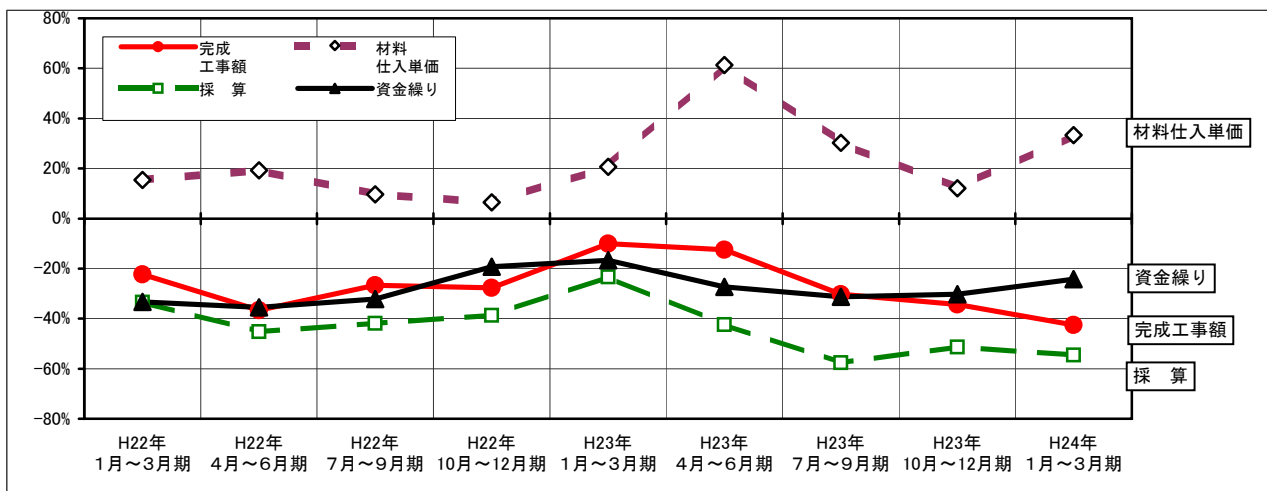
### (2) 建設業

D・I (景気動向指数・前年同期比) 指数は、公共・民間工事の減少が続いている中、前期は若干の低下に踏み止まったが、今期は期待していた年度末の公共工事は伸び悩み、8.2ポイント「悪化」した。材料調達難の解消により「材料仕入単価」は2期連続で「低下」していたが、セメント等の資材等の高騰により21.2ポイント「上昇」となった。今後の市場動向が見えない状況が続く。

来期の公共、民間工事共、震災・災害復興が本格化するが当地までの好影響は期待薄、むしろ消費増税による前例し受注に期待が高まる。

#### ① 建設業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

建設業	H23年				H24年	(予測)	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	
完成工事額	▲ 10.0 %	▲ 12.5 %	▲ 30.2 %	▲ 34.3 %	▲ 42.5 %	▲ 33.4 %	
材料仕入単価	20.7 %	61.3 %	30.3 %	12.1 %	33.3 %	15.2 %	
採算	▲ 23.3 %	▲ 42.4 %	▲ 57.6 %	▲ 51.4 %	▲ 54.6 %	▲ 36.4 %	
資金繰り	▲ 16.7 %	▲ 27.3 %	▲ 31.3 %	▲ 30.3 %	▲ 24.3 %	▲ 21.2 %	



#### ※『完成工事額』の状況 前年同期比 (D・I 値)

完成工事額 … マイナス 42.5%

(前期比 8.2ポイント悪化)

採算 …… マイナス 54.6%

(前期比 3.2ポイント悪化)

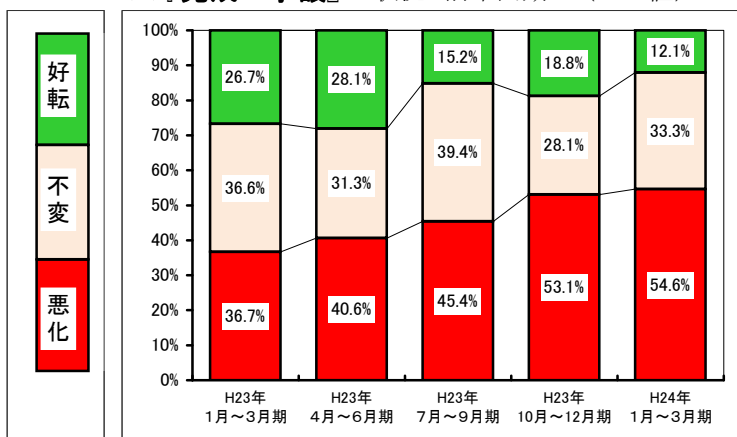
資金繰り …… マイナス 24.3%

(前期比 6.0ポイント好転)

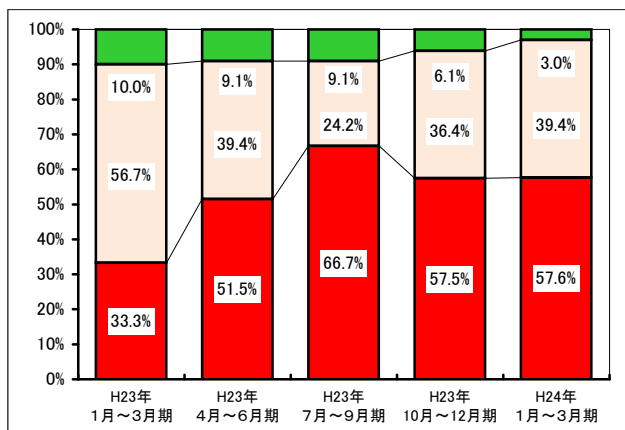
「完成工事額」の「悪化」企業が5期連続で増加し、「好転」企業の減少もあり、完成工事額D・Iは4期連続で低下した。

またセメントや管等「材料仕入単価」の「上昇」も影響し、「採算」のD・Iは「悪化」に転じた。

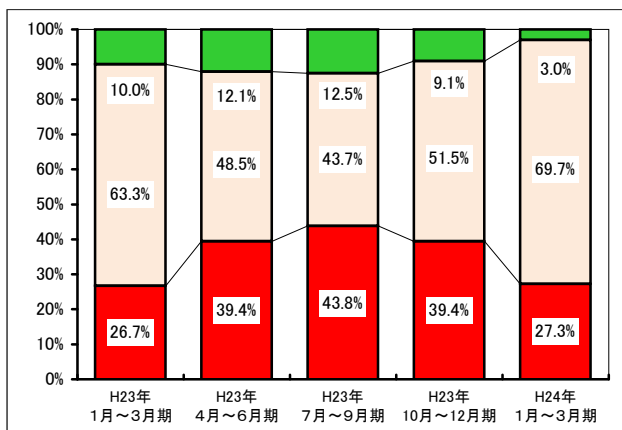
資金繰りは若干の改善がみられる。



#### ※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



#### ※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)





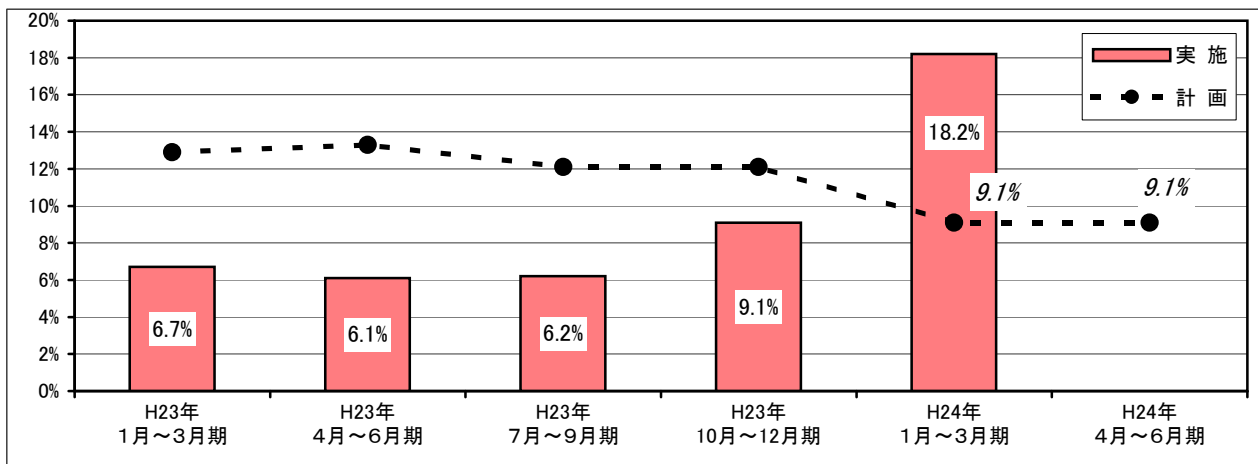
### 3. 各業種の景況

### (2) 建設業

#### ② 設備投資の状況

「完成工事」、「資金繰り」が好転しない中、必要に迫られた老朽車両等の更新設備投資が殆どである。来期の設備投資は土木事業で目立つ。

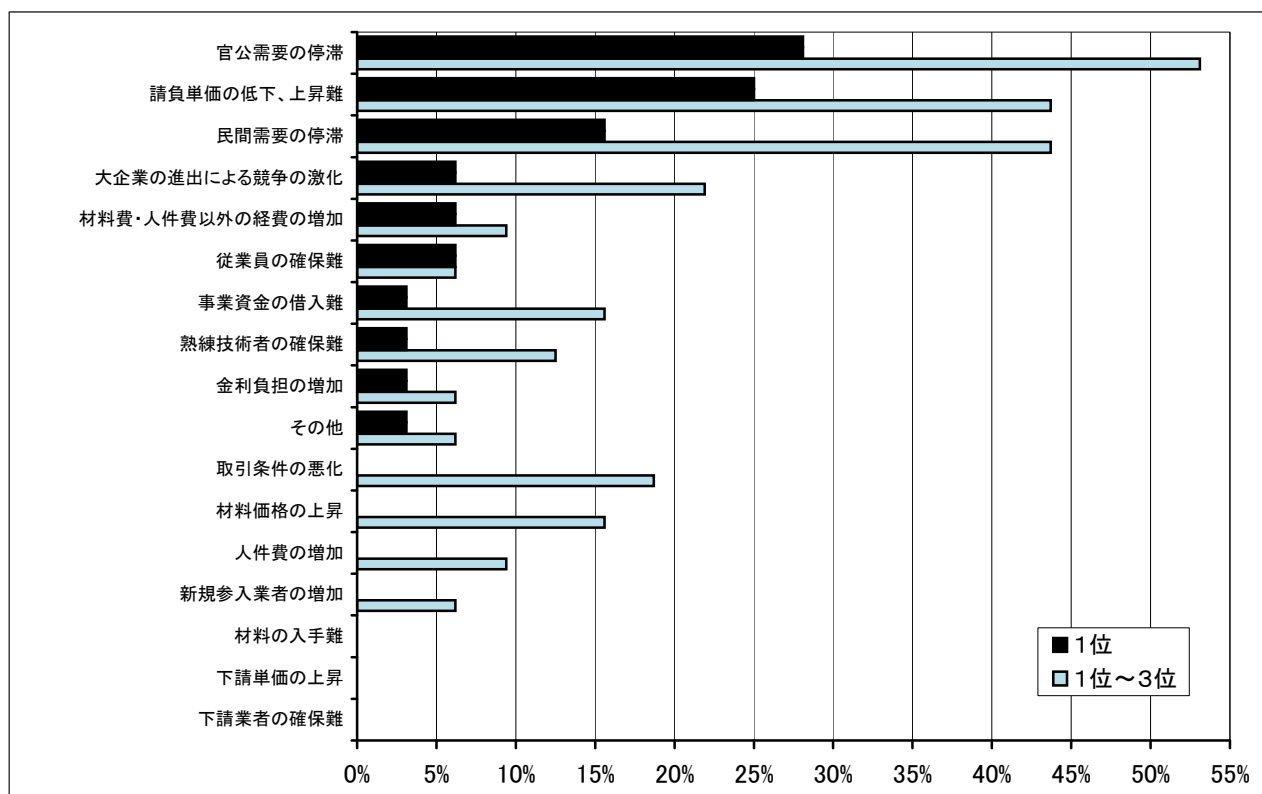
建設業	H23年				H24年	(計画)	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	
土地	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	33.3%	
車両・運搬具	50.0%	50.0%	50.0%	33.3%	33.3%	66.7%	
建設機械	0.0%	50.0%	50.0%	33.3%	0.0%	66.7%	
設備投資の実施	6.7%	6.1%	6.2%	9.1%	18.2%	9.1%	



※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

#### ③ 経営上の問題点

公共工事は震災・災害復興が優先される状況で、地域の公共工事に歯止めがかからない状況の中で、「請負単価の低下」を1位に上げる企業が増え、「民間需要の停滞」を1位に上げる企業が減少した。耐震対策・エコ対策等のリフォーム需要の回復が要因と考えられる。



(注) 問題点の1位に上げた企業の割合

### 3. 各業種の景況

### (3) 小売業

D・I（景気動向指数・前年同期比）指数は、「売上額」は4期連続で持ち直し傾向にあったが、一転して17.4ポイント「悪化」した。「仕入単価」は6.5ポイント「低下」したが、「採算」は23.7ポイント「悪化」した。「好転」企業は「燃料小売業」のみで、「衣料小売」は年末までの暖冬が1月以降寒波となったが、消費は回復しなかった。

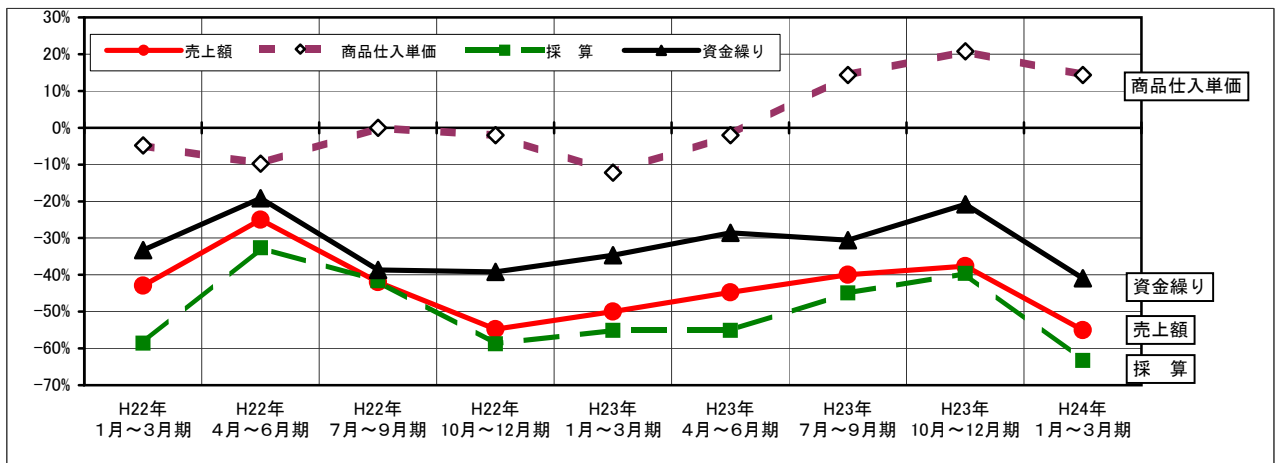
「食品小売」は、天候不順による野菜等の入荷量が不安定、また暖房コストのアップにより仕入価格が高騰し、価格的に優位な大型・中型店に顧客が流出した。

全体として、低価格志向が広まる一方、「ほんもの」志向客に絞った店も増加している。

#### ① 小売業 D・I 値（景気動向指数）の推移 —前年同期比—

（予測）

小売業	H23年				H24年	H24年
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期
売上額	▲ 50.0 %	▲ 44.8 %	▲ 40.0 %	▲ 37.6 %	▲ 55.0 %	▲ 32.7 %
商品仕入単価	▲ 12.2 %	▲ 2.0 %	14.3 %	20.8 %	14.3 %	16.7 %
採算	▲ 55.1 %	▲ 55.1 %	▲ 44.9 %	▲ 39.6 %	▲ 63.3 %	▲ 51.1 %
資金繰り	▲ 34.7 %	▲ 28.6 %	▲ 30.6 %	▲ 20.8 %	▲ 40.9 %	▲ 32.6 %



#### ※『売上額』の状況 前年同期比（D・I 値）

売上額 …… マイナス 55.0%

（前期比 17.4ポイント悪化）

採算 …… マイナス 63.3%

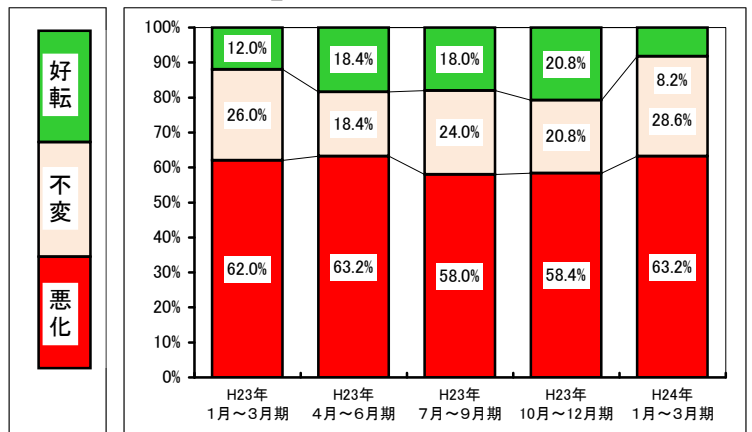
（前期比 23.7ポイント悪化）

資金繰り …… マイナス 40.9%

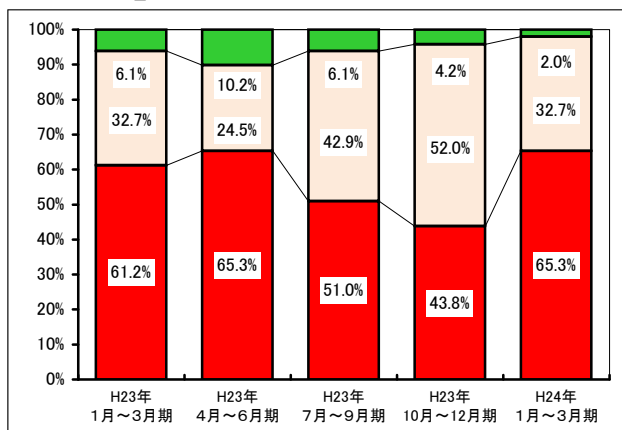
（前期比 20.1ポイント悪化）

「商品仕入単価」は3期連続の「上昇」から「低下」に転じたが、「売上額」の「好転」企業の減少により、「採算」の「悪化」企業が大幅に増加した。

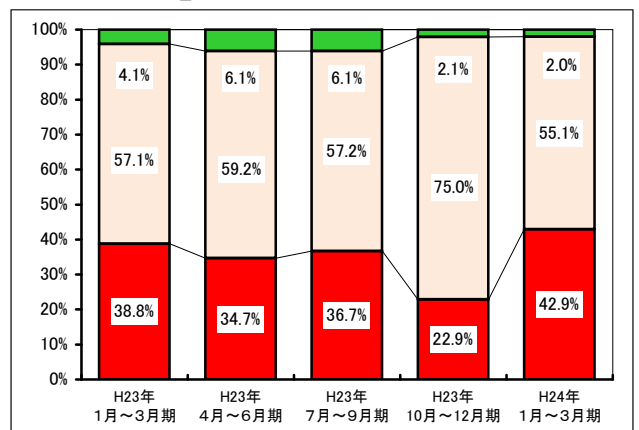
資金繰りD・Iも前期の「好転」傾向から、今期は大幅な「悪化」に転じた。



#### ※『採算』の状況 前年同期比（D・I 値）



#### ※『資金繰り』の状況 前年同期比（D・I 値）



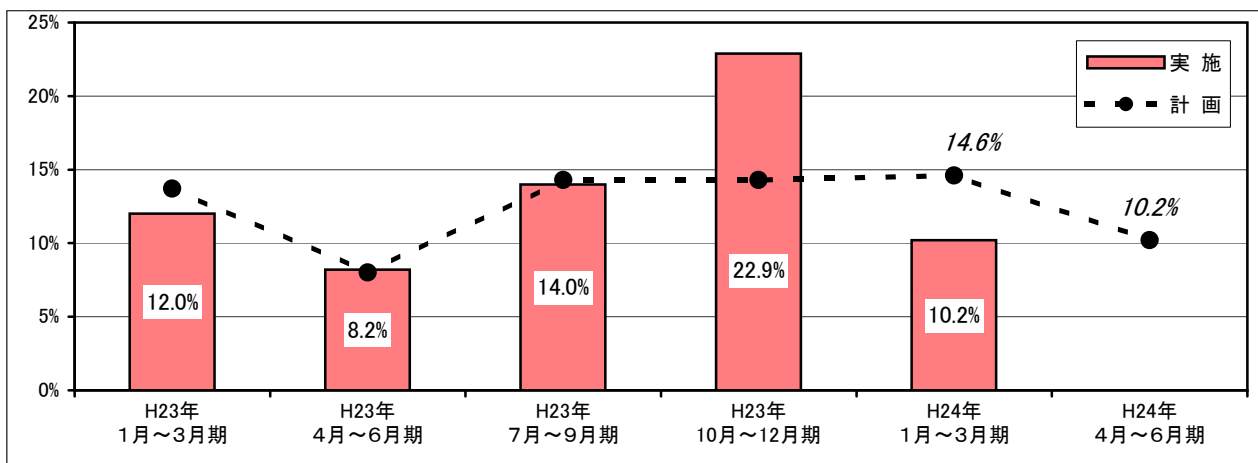
### 3. 各業種の景況

### (3) 小売業

#### ② 設備投資の状況

今期の設備投資は「車両・運搬具」の更新設備が殆どで、「採算」の悪化により設備投資を実施する。企業は半減した。来期の投資計画も消費マインドの低迷による先行き不透明な中でなかなか踏み切れないのが実情。

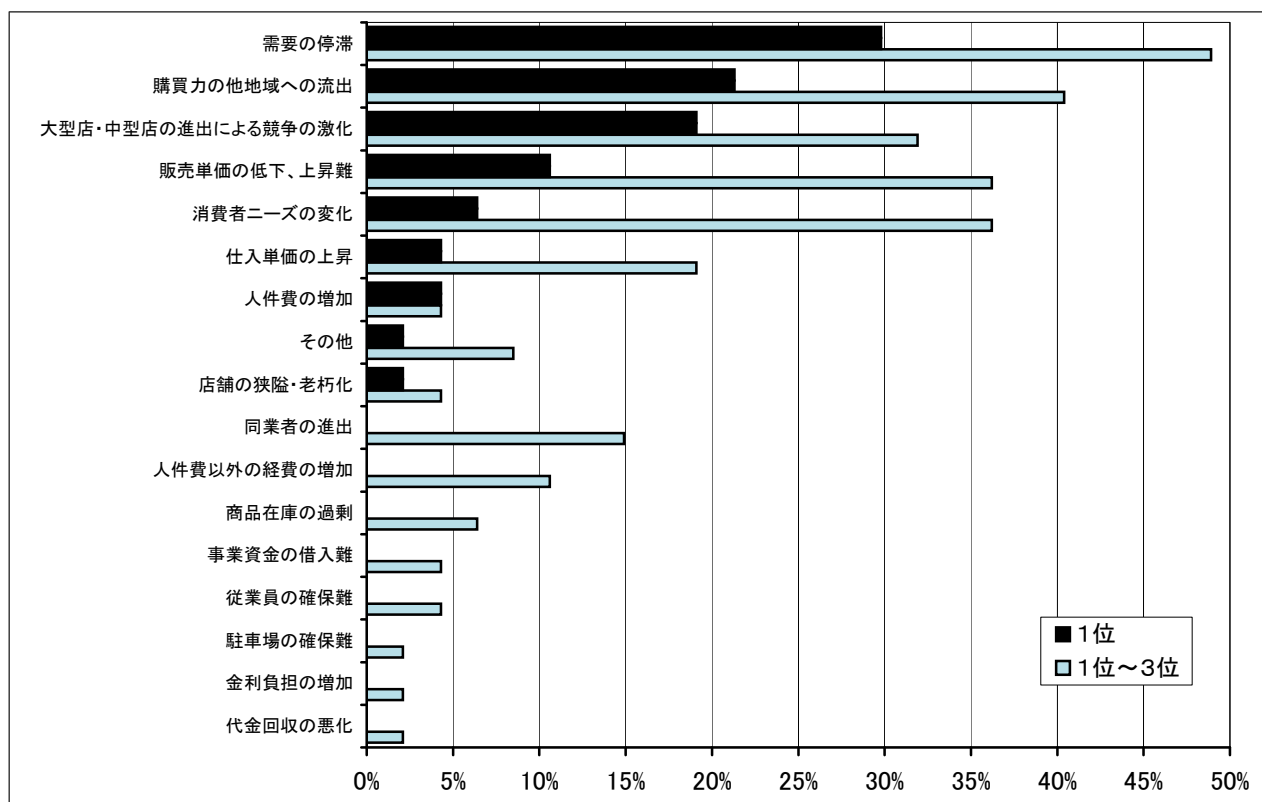
小売業	H23年				H24年	(計画)	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	
土地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
車両・運搬具	50.0%	25.0%	0.0%	36.4%	40.0%	40.0%	
販売設備	16.7%	25.0%	57.1%	18.2%	0.0%	0.0%	
設備投資の実施	12.0%	8.2%	14.0%	22.9%	10.2%	10.2%	



※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

#### ③ 経営上の問題点

中部、北部地域の大雪とガソリン価格の上昇により、外出を控えたこともあり、「需要の停滞」を1位に上げる店が大きく増加した。食料品小売では、天候不順で入荷量減少による価格高騰と顧客の大型・中型店への流出により、売上げが低迷している。



(注) 問題点の1位に上げた企業の割合

### 3. 各業種の景況

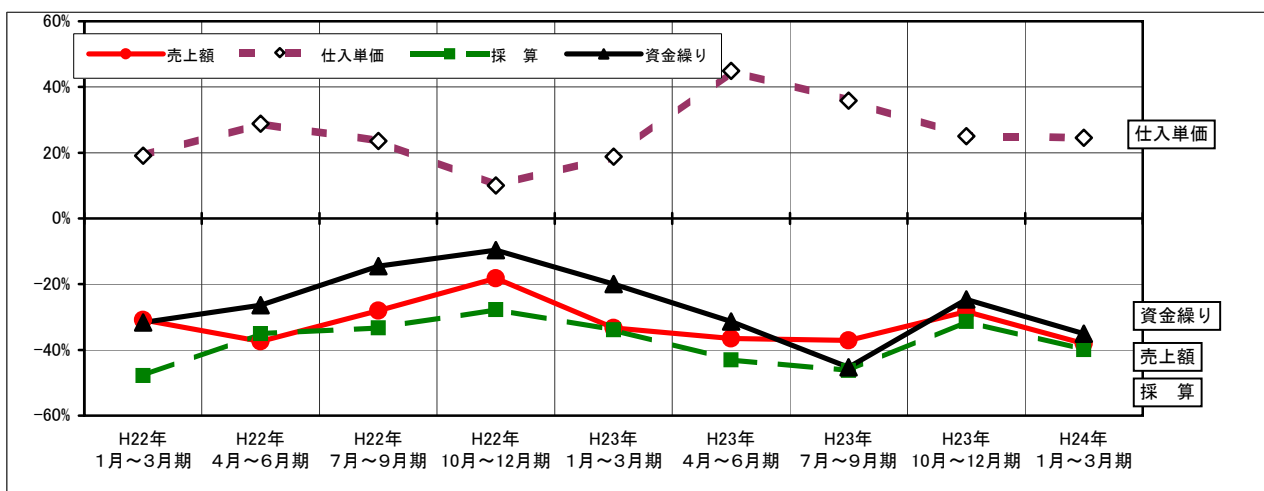
### (4) サービス業

D・I (景気動向指数・前年同期比) 指数は、前期は秋の行楽シーズンで、「売上額」「採算」共に「好転」したが、自粛の緩和により、飲食・宿泊業は新年の需要は持ち直したが、しかしそれ以上に大手チェーン店の値上げ競争がより顕著になり、街中の飲食店は苦戦を強いられている。

理美容業・洗濯業・自動車整備業は、原油高騰の影響や顧客の減少により、「売上額」の減少により、「採算」「資金繰り」共に「悪化」となり、厳しい状況にある。そうした中で、「自動車運送業」は冬の観光客の増加により「好転」を継続している。

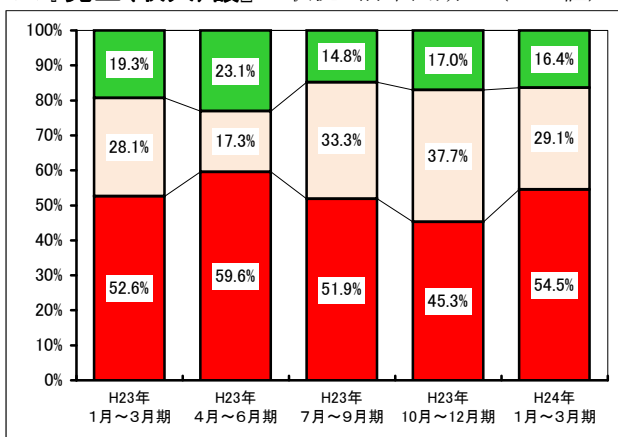
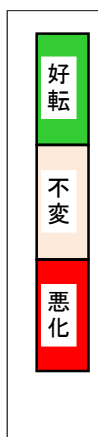
① サービス業 D・I 値 (景気動向指数) の推移 — 前年同期比 — (予測)

サービス業	H23年				H24年	H24年
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期
売上額	▲ 33.3 %	▲ 36.5 %	▲ 37.1 %	▲ 28.3 %	▲ 38.1 %	▲ 27.2 %
仕入単価	18.8 %	44.9 %	35.8 %	25.0 %	24.5 %	27.0 %
採算	▲ 33.9 %	▲ 43.1 %	▲ 46.3 %	▲ 31.4 %	▲ 39.9 %	▲ 38.2 %
資金繰り	▲ 20.0 %	▲ 31.4 %	▲ 45.3 %	▲ 24.6 %	▲ 35.1 %	▲ 24.1 %

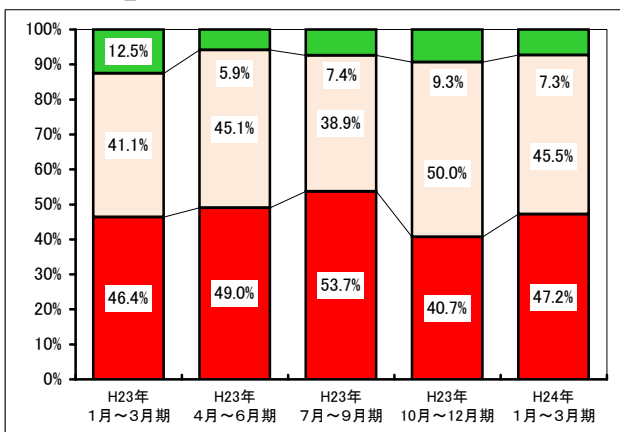


※『売上(収入)額』の状況 前年同期比 (D・I 値)

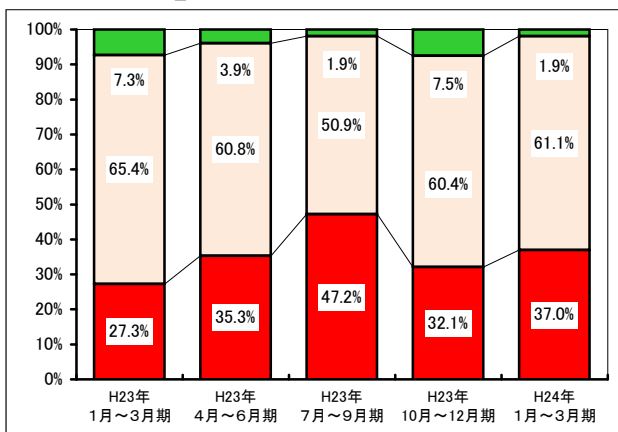
売上額 …… マイナス 38.1%  
(前期比 9.8ポイント低下)  
採算 …… マイナス 39.9%  
(前期比 8.5ポイント低下)  
資金繰り …… マイナス 25.1%  
(前期比 10.5ポイント低下)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



### 3. 各業種の景況

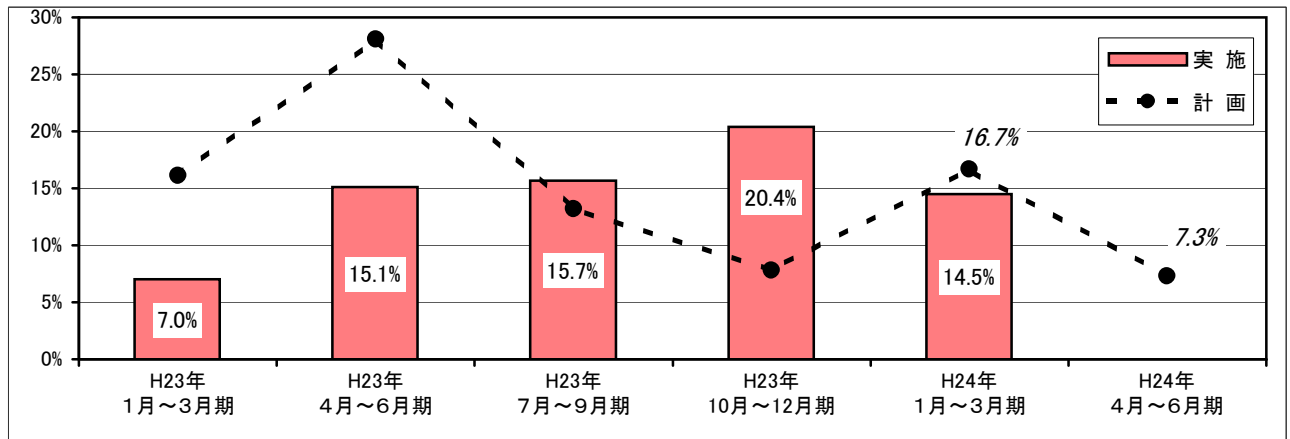
### (4) サービス業

#### ② 設備投資の状況

「飲食業」「理美容業」において、店舗の老朽化による店舗改装等サービス設備投資を行った企業はあるが、全体として、「売上」「採算」の「悪化」により、設備更新の時期が長期化している。

来期も、設備投資計画を見送る企業が多い中「車両・運搬具」の更新計画する企業は少数ある。(計画)

サービス業	H23年				H24年	H24年	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	
土地	0.0%	12.5%	12.5%	9.1%	12.5%	25.0%	
車両・運搬具	0.0%	12.5%	12.5%	18.2%	12.5%	75.0%	
サービス設備	25.0%	25.0%	37.5%	36.4%	25.0%	0.0%	
設備投資の実施	7.0%	15.1%	15.7%	20.4%	14.5%	7.3%	

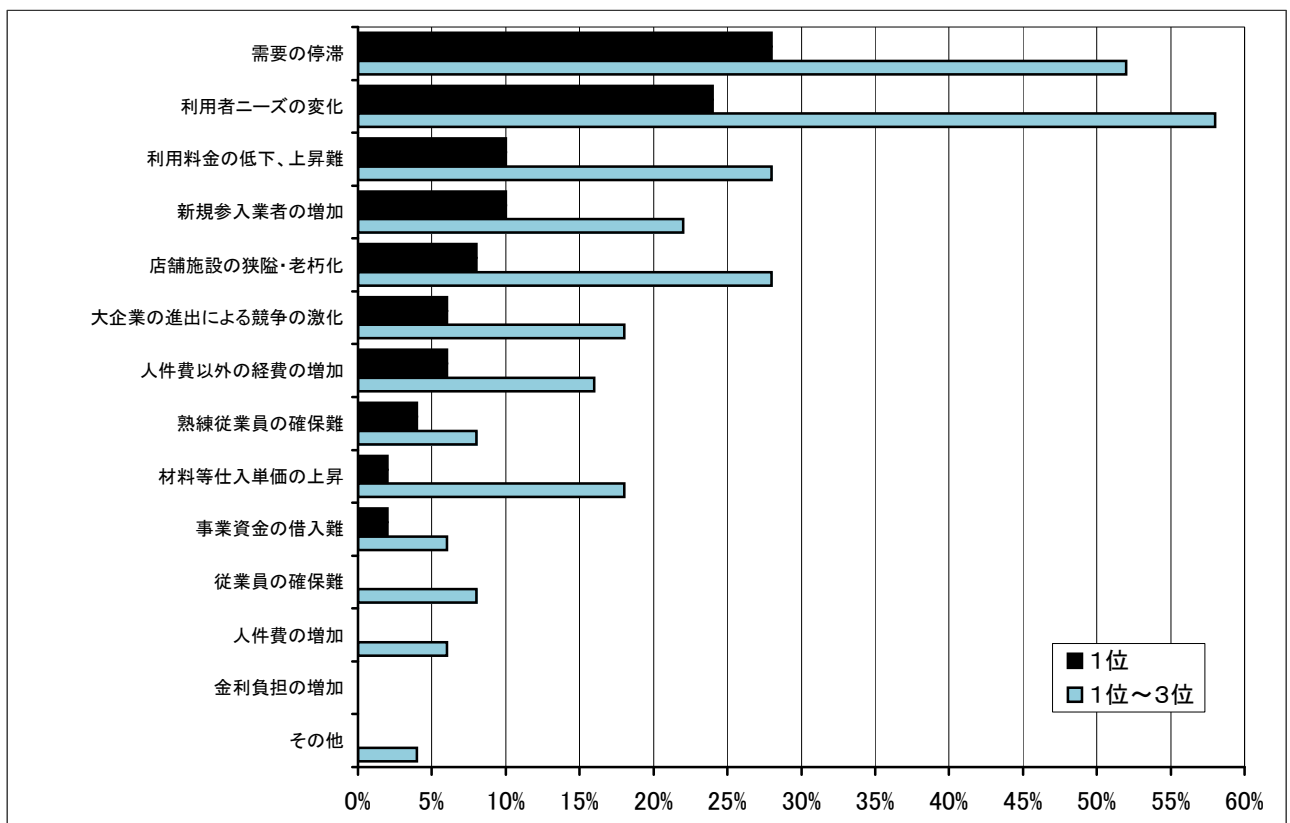


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

#### ③ 経営上の問題点

消費者の節約志向から「利用者ニーズの変化」を1位に上げている企業が増えている(10.6%⇒24.0%)

特に、飲食業では「コンビニ商品で簡単に済ませる」、洗濯業では「クリーニングの必要な衣類は着ない」、自動車整備業では「チェーン店で最小限の費用で済ませる」等の節約ムードがあると思われる。



(注) 問題点の1位に上げた企業の割合

## 京都府商工会連合会

615-0042 京都市右京区西院東中水町1-7番地  
(西大路通り五条下ル東側)  
京都府中小企業会館四階

TEL : 075-314-7151

FAX : 075-315-1037

e-mail : [office@kyoto-fsci.or.jp](mailto:office@kyoto-fsci.or.jp)